



暑い日が続いています。太陽の下7-11で「見いきりオ(エカ)ア」子ども達が居る一方で、木陰におまふとE選び、バグツビカEくんで森の色は場所がで涼、EとYTから遊ぶ姿もあちらで見られます。
「ニニ=ちおと寝ておんえ」と空木くんに誘われ森の奥の基地横の地面に寝転ぶ。そはうかつとE木の間にすーとびびり風が流れて、目を閉じると鳥とセミの音、目YTの音とは別世界のひんやりE場所E。暑い日に汗たE-11に入らなくも、それぞれこの場所E見つけた遊んでいる子供EとE今日も森は静かに色んでいます。

この連休、視察にある「視察養生園」で、「わたくしEちE子Eしているのか! ~保育や教育にE関わるわたくしEちEてEをめぐり、森の2泊3日」という集まりがあり、びっぴスタッフ4人で参加してきましE。
そもそも「びっぴの場所Eつくる」EとのE意のある西村佐智さんEファシリテーターに、びっぴのスタッフのE場所EとE計画EしたEのE、せがくEら、保育・教育にE関わるE色EなEとE共EわEあEいたEというEとEにEまEした。EびっぴEたE文章EはEんEはEうEしたE。

「保育や教育に関する仕事をつうじて、わたしたちはなにをしているのだろうか?」

この問いをしばらくずっと抱えています。

保育・教育のどちらにも「育」という言葉が含まれていますが、育む・育てること以前に大切なことがあるような気がしています。「気がしている」のですが、それがはっきりしているわけではありません。もちろん、それをはっきりさせたり、何か一つに絞ったりしたいわけではないのですが、なにかこうもやっとしてしているものを、もう少し確かめたい感じはしています。

そういう思いを出発点として、この2泊3日を企画しました。

保育・教育の現場に関わる人同士で、それぞれの体験や日頃考えていることを持ち寄り、ゆっくり語り合う時間を持ちたい。それぞれが大切にしているものをより確かめ合える、それが翌日以降もつづけてゆく力につながる、そんな時間をつくってみたい。

こんなふうに思っています。

一緒に2泊3日を過ごしてくれる仲間を募集します。

保育士、小学校の先生、教員E育Eる大学の先生、病室の子どもEとEせEの家族E関わる病棟保育士、保育園の園長...EとE年も強E場所E持EたE15人が集Eて集Eい、ゆEりEとE語り合Eい、心E寄E合EったE三日間。あE時Eは全員で車輪EにEって、あE時EはE個EにE分EれEテEラE部E屋EのE隔EでE小E子E集EまりE。EとEリE足E伸EはEてE視E察EのE原E生E林EのE語り合Eい...EニEはEびっぴEスタッフE4人のEミEテEンEのEサEリEにE他EのE参加E者がE観E察E感EじEたEとEE語り合EいというE斬E新EなE西E村EさんEのE提案EにE驚EきEつE、率E直EにE感E現EからE深EくE確E立EたEたE考察EまでE多E様EなE意見EをE聞EくE中Eで、E普E段EのE自E分EとEちEのE右E左EをE振EりE返EるE機E会EをE得EましE。

養生園スタッフのEやEわEらEいE春EのE可E愛EなE関EわりE、EのE中EでE一E層EにE目EをEしEてE語り合EうE3日間E共EにE通EしEたE15人のE仲E間EとEのEおE互EにE等E重EなEようEなE距E離E感E、E絆EにE包EまEれEたEあEのE3日間E心E地EいEいEとE感EじEたEそEのE感E覚EがEびっぴEのE森EにE寝E転EぶEたE時EもE続EいてE確EかにE存E在EしEてEましEたE。EこEこEかE、EこEのE場E所EがE、EすEとEいEうEいEうEなE人EにEとEてEそEんEらEいE地EいEいE場E所EにEまEるE、EこEのE感E覚EをEもE続EけてEいEたいEとE感EじEましEたE。

: 美和子

おおきく木だより

森の再生のために保護区域をつくら2ヶ月が経ちました。一面真黒の土が露出していた4月。毎日のように踏みつけられていた地面は固くなり、本当にここから芽が出るのか半信半疑...。少し耕した方がいんじゃないか、何か新しく種や苗を挿し込んだ方がいいんじゃないかと述べたこともありましたが、でも、「ま、大丈夫」と信じて待つ。GW明けにやっと小さな芽が、少しづつ顔を出し始めた。やっと「ここならなんでも大丈夫かな...。」と思いきりぐうぐうと緑が茂るようになったが、前のように思い通りあそびようにならなEまEには、まだ数年の時間EをE要EするE。

おおきく木では、森との関係を深めたいと「森の時間」という活動を行っています。今年度のスタートは、4月末に行った「ほくの木・わたしの木」の7007うんでした。ご存知の通り、おおきく木の人は、一人一本の木を選び、そこに自分の名札をつけている内容です。小さな名札をつけるだけのことなのですが、どうやらただでぐうと木の距離が縮まります。「おれの木、これ!」「わたしの木、教22あけろ!」という感じで、引きかた方も多いのではないのでしょうか。そしてそれから1ヶ月たった6月初旬、今度は森の「福笑い」という7007うんEをE楽EしEましEたE。木や葉、はEにE目E玉EをEつEけEたE顔EをつEらEてEみEようEというEものEですE。名E札EをEつEけEたEあEるE程E度EのE時E間EがE経E過EしEてEましEたE。EのE間EにEとEれEがEほEくEのE木E、EわたEしEのE木EのE確E認EもEしEてEいEましEんE。E森EにEはE沢E山EのE木EがEあEりEましEたE。EみEんEなEちEんEとE賞EえてEいEるEのEかEなEあEとE不E安EにE思EいEたEかEらE「ほEくEのE木E、EわたEしEのE木EにE目E玉EをEつEけEたEあEけEようE思EうEんEだEけEどE、EみEんEなE、EこEにEあEるEかE覚EえてEこEとEとE声EをEかEけEましEたEかE、EそEんEなE心E配EはE全EくE不E要E。E森EにEはEあEらEとEちEうEはEりE、「あEたE!」「こEかEだE!」とEまEつEほEろEくEりEさEくEもE含EめEてEみEんEなEがE迷EうEこEとEなくE自E分EのE木EにE駆EけE寄EりEましEたE。EとEしE7月E、E葉EのE上EにEコEーE用E紙EをE置EきE、EクEロEンEでE擦EるEこEとEでE葉E肌EをE浮E上EかEらEせEるE「葉EのE擦EりE出EしE」EをE行EいEましEたE。E説E明EをE南E林EにEおEしEてE後E林EくEんEがE「他EのE人EのE木EのE葉E、EはEとEとEもEいEいEのE?」とE質E問E。「うEんE、EいEいEよE。EでEもE、EたEまEてEしEるEんEにEなEくE、EそEのE人EとEそEのE木EにE「一E枚EちEうEだEいE」EとE声EをEかEけEるEこEとEいEいEとE思EうEよE。」E「わEかEたE!」「誰EかEのE木EにEなEくEもE「一E枚EちEうEだEいE」EとEそEのE木EやE草EにEおEかEいEしEてEみEてEねE。」E「ほEくEのE木E」EとE大E切EにE思EうEてEいEるEかEらEこEとE、E他EのE人EのE木EもE、EそEれE以E外EのE木EもE大E切EにE思EいEるEのEでEしEようEねE。EつEいE先E日E、E木EのE洞EにE何EかE生E物EがEいEるEとE大E騒EぎEにEなEたE時EもE、「しEんE士EんE、E羽E希EちEんEのE木EにEかEんEがEいEるE!」とE興E奮EしEたE様E子EのE遙E人EくEんE。E自E分EのE木EにEなEくE、E他EのE人EのE木EもEらEかEりE認E識EしEてEいEるEのEでEすE。

森の保護区域は、それまでみんがでいっはいあそびた場所です。登るのにちょうどよかった木、1-7007をかけた楽しんでいた木、セミの抜け殻がいっぱいあった木、秘密基地をつくら木...。それまでいつも一緒にあそびていた木が、1つだけ存在にたつてしまっていました。しかし、びっぴの森のおおきく木25人の25本の「ほくの木・わたしの木」が、木との関係とぐうと深められていることは間違いないと思います。「ほくの木・わたしの木」を通じて2学期もたつたり森に関心と寄せ、共に生きている関わりを深めたいと思います。

真之介

- 武のお誕生日のお祝いの日。ト4係の(悠)は名前を叫ぶと張り切って缶火を点けてもらうと堂々と大仕事ぶり。席に戻りながら「お礼軽くしてやったよ」「火がつかなくても持てやったよ」といふ。後日、(天)のお誕生日のお祝いのト4係は(明)。名前を叫ぶと(明)「あーちゃん初めてだ！」と笑顔で心配な表情もなく、自信に満ちた顔で火が点いたト4を運びました。(暁)もずっとそれを見ていて(明)「ヒロムくんもフーできるよ」と何度も立ち上がって前へ出て見ていました。
- 家族ごとの(聖)(丸)(陽)(明)。パン屋の(悠)(行)(朝)(俊)。宝石屋の(真)(律)(蒼)。野菜屋の(理)(心)。合体してのび遊びが続きます。大きな集団で遊ぶのが楽しかった。
- 朝の会のあとで「崖へ行こう！」という(穂)に(律)「崖。行きたいの？ 行こうか？」と静かに聞いてあげて手をつないで一緒に登っています。崖の途中には登っている人がたくさんいて(穂)も登ります。(天)(暁)と何より側から降りてきました。
- (心)は初めてのアートの日。(郁)「黄色とオレンジの春の光をたどり。空は地面の土の中の種も光が届くようにいっぱい春の光を描いて下さい。春の光の中に赤い種を蒔いて。一つでも二つでも三つでもいいですよ。花の種も。野菜の種も。木の種も...」(蒼)「野菜！ そのほか！」(真)「これ。人形はいいね。人が蒔いてるんだ！」(暁)「あ、種が動いた！」(心)「私のほひまわり！」
- 4月も後半に入ると、朝の集いの名前呼びで(暁)も全員返事をしています。手遊びや歌。指人形にも集中しています。
- (暁)初めてのお散歩。大きい人と小さい人が手をつないで歩きます。今年の(暁)はおんこり手をつなぎ、堂々と歩こうと感心しています。紅葉谷に着くと(天)(真)(暁)(羽)は崖登りをはじめました。(天)が棒を持って12mの下から(暁)「棒を持ってはるよとあぶらふ〜」と声をかけると(暁)「どうして？」(心)と理由を確かめながら感心していました。
- ランチ後片付けで(心)はお手拭きをジップロックに入れようとしていました。がなかなかうまく入りません。あきらめずに何度もトライしています。(心)「何ぞ入らぬのかね」とため息をつきながら不思議そうな表情。(暁)「難しいね」と手を貸すと「いーとやり方を見ています。自分でもやろう。どうしたらできるだろうと考えているような様子。たのしいです。(真)がシートを持って地面に敷くといいです。おつかい頑張ってください。バックサックを背負って遊んでいる(暁)(心)が近づいてきて2人並べてシートの両端を持ち、シートを敷いてあげていました。

- (理)(明)(心)が石にマジックとクレヨンで色を塗り始めました。(理)は升と茶を混ぜてあげ、刺激工場の(朝)はきのこ新幹線を描きました。(穂)(心)(丸)もやって来て真似しています。(明)「紫と赤と茶を混ぜるんだー」「丸」紫と赤と茶を混ぜたら何色になる？」「明」きれいな色だよ」「丸」丸もやってやるよ！」
- 朝の集いのスズが鳴っても緑の陣地と持っていて。朝の集いに行く気配が(真)(暁)(心)(律)「ん。みんなおはようほらよ」「(暁)「いやだ！」(暁)「緑の電車に乗ってみんなで行こう」「(暁)はにこにこ！ 抱っこしてよ」「(天)もすくと降りて。緑の電車は出発しました。
- 朝から(羽)は手に野菜の種を2つ握り締めて朝の会が終わっても握ります。(暁)「種蒔きしようか」「羽)「うん！」土をシャベルでやわらかくして「あら...とやっている(明)「あーちゃんもお手伝いしてあげようよ」(暁)「一緒に種蒔きしてもらおうか」「羽)「うん！」(羽)はニラとバジルの種を持ってバジルを蒔きたいと云うので筋をつけて種を少しづつ落とす。ペラペラ。(明)「ここの手はグーにあるよ」と畑の土を降した時の大きな声やよく聞いて(羽)もにこにこ聞いています。土をかぶせて大きく踏み込み板を目印にしています(羽)はまた種の袋を握り締めています。畑の前から蒔き手。(暁)「これあ、びょうろを取ってきてお水をあげようか」「羽)「うん！」何だか水やりをする時。種の袋を手離して(明)と遊び始めました。
- (行)(星)(悠)(暁)(明)(俊)(武)(蒼)の仮面ライダーごっこで一緒にたて戦っている(穂)(基)。おどろかせていた(天)(律)の周りの戦いが始ると仮面ライダーから隠れる3人。(律)「かこれなすや」「(天)「たいん！」(心)「あ、仮面ライダーアマゾンのはたがあるんだ！」(心)「アーマー!!」と変身。おどろくと(律)「カメハハハ！」と攻撃開始。(天)「あーっ！」おどろく人にも元気な声で叫ぶ妹たちです。
- 崖に登っていると(暁)(環)。(暁)の靴が脱げ、下に転がってしまいました。(環)がそれを追いかけて手をもち崖を上ってききました。(暁)はそれをにこにこ受け取りました。ところが(環)が別の方向を向いているときは(暁)は手ごたえ靴を脱いで下にほうり投げました。(環)は靴が脱げて落ちたと思いきや、おどろき降りました。それを上から見る(暁)の表情は少しうれしそうです。笑っていました。何度か繰返してはうちに(環)が転んで靴が脱げました。おどろき(暁)は降りて来て(環)を岩の上に座らせて靴をはかせてあげました。
- ロープで(環)が鉄棒の前回りのようなことをして下に落ちました。それを見ていた(暁)「あー大丈夫？ よかったね」

・金曜日の④の掃除。お片付けが始まると率先してお片付けとE集め。たらいに
 入れ始める(送)(武)(倉)。手慣れも頭に入ってきたので。洗い始めると、どうにも水が跳
 ねてしまい服が少し濡れてしまっている。ちよと前に着替えて(真)。真「おっちゃん、水が
 かかった! やめてー」と声を荒げています。(送)「しょうがないだろ。仕事なんだから」(武)
 「おっちゃん、お片付け」と強い口調で言われ、お片付けを止める(真)。隣りに洗
 う手を止めると(真)「トマスの服が濡れるのがいやなんだよ」と呟くと、「うん」とうづき。
 洗濯(真)。その後、少し濡れることも気にせず掃除を続けていた(真)でした。④の掃除
 が終わって②「④の机は黄色の「おとび」を探してくれる?」とお願ひすると、(武)があま
 り大きくない声で「わかれろー」と言う。それを耳にした(送)「分かれて探せ!」と大声で
 机の上に伝えています。

・②が④に「スズをお願ひ」と伝えると別れて走って行った(送)。気がた(真)も走り
 (送)を抜かれ、スズを鳴らして(送)が大泣き。何とか朝の集まりまで連れて行き、座
 ったのがご機嫌なため。ところが朝の会が終了とたん(送)「ほらもう泣かなくな
 ったよ」と伝えられました。

・車道を通ってお散歩へ。大きいと②ペアの手をつないだのが(羽)(送)は④同士し
 かり手をつないだらして(送)の片手出発。前には(送)や(送)がふらふらと白線の外側
 へ出るのが気がた(送)「ほら、線の内側に入って!」車が来たら血が出て
 死んだらどうよ!」と実際にしかり声をかけています。言われている(送)(送)は必死に
 ④同士でも危ない(羽)(送)ペアでした。

・くぼけのようは所が海には釣りを始めた(墨)(行)(送)(組)。そこへ(果)(組)(女)も
 加わり、さらには(秀)(真)(悦)も加わりました。枝の先に葉っぱを刺す(墨)のやり方を
 真似て(送)「できな〜い!」(墨)と(組)が葉っぱを刺さないと「釣れな〜」「魚〜
 と大喜びの(送)と(悦)。魚を焼いている所へ釣った人が帰ると「お帰り〜」と大
 声で。早速真似て(悦)「お帰り〜」。④達が大きい人の真似をしてここを楽し
 んでいる姿がほほえましい。

・御代田町町長 来園の日(送)(倉)。大きくおたああ!」と声をかけています。照ら
 ている(送)。おかさ横にいた(送)「ほら、ほくもこんな大きなおたああ!」

・④初めての避難訓練。11時キッチンから火が出たという想定で「火事さ。キッ
 ンから火が出た」と言いながら笛を3回吹きました。各々の場所を思い出して(送)も
 スムーズに集まる事ができました。訓練が終わり、みんながトイレや手洗いで済むと
 (送)が走ってキッチンへ行き、(送)列。巻いてあるホースの先を握り、キッチンへ向かって何か
 言っています。それ(送)「火が消えました」と報告。

・泣いている(送)は手をさし出し(組)。送)は素直に手を握り、少し腰をかかめ、中々歩く
 (組)に手を引かれ、おと涙が止まりました。また、ランナーは(送)とお母さん思い出のようぞ
 涙に(送)。ある日割り添って(送)は(送)。④は手を引かれ、ランナー後、二人で(送)作
 言葉も交わっています。④のオムツ替えの時に(送)「(送)のパンツもきれいにしようか」(送)「だ!
 (送)「おっちゃんと一緒に行動か」おん(送)歩き出す(送)。④は遊んで(送)シャベルや棒と
 を取りに行き、オムツ替えしている(送)は(送)「ほら、ここに持ってきたよ」(送)も嬉しう、オム
 替えをした(送)は、また(送)と遊びました。

・泣いている(送)は、(送)(送)が両方から手を握り、歩き出すと、(送)は泣き止み始められた。人
 は切り株に座り、(送)(送)は近くにあった葉っぱや板を(送)に語りかけている。そ
 のうち葉っぱや板が命を握り始め、動き出し、(送)(送)の新しいお話を始り、(送)
 もじっと聞いています。

・朝 お母さんが帰った方向を見て、切り株に座ってわめいている(送)、スズが鳴り、みんなは、
 朝の集まりの方へ走って行っている。行き先にあたり(送)が(送)に気が付き、(送)の所へ走って
 行く。それ(送)は何か語りかけ、ぎゅと抱きしめ、抱いたまま歩き出す。重なりがまた
 歩いている。そのうち、降り、笑顔の(送)と手を握り、朝の集まり方向へ、(送)に気が付いた
 (送)「自分さ、歩かなくて!」と(送)も笑顔。

・おおまぐみ田んぼ代掻きの日。この日、どうにも(送)(送)(送)は、2人組
 という感じで(送)も(送)も(送)も3人。みんなの田んぼ運動会。この審判
 も任せられ、(送)切っています。みんなが、どうにも(送)「あーぶくたつた」に(送)を
 始めると、3人も(送)の細い所を、みんなは負けないように大きな声で「あーぶくたつた
 と同じように始めました。進めるのも進められるのも勢いがあり、本当に(送)3人
 でした。

・朝の集まりで②「今日のお片付けはあ、のつく人、誰かお片付けが「あひる」お片付け、何も不思議
 に思わないでね。大きい人は大笑い!!」

④ 田畑Tより

畑の作物が大きく収穫しました。ひびひの大きさはさうりほ。おおきくマのお料理で、冷やし中華と冷やしラーメンの具に变身。トマトは赤く、夏に木中に食べ頃になるとしてしまうから...とせきもき。今ちよと花豆といんげんの紅白の花がきれいに咲いています。田んぼの畑のカブも人参は間引きしてからひびひの倉庫に何度が登場。ある日のお味噌汁、カブはTさん。でも味がおいしくない小さい間引き人参は入る確率が低いので、小さい人参を見つけたら「こんじんあつね! 当てるね」といってやる何人か。Tさんの煮ものでゴロゴロと大きく切った人参は「苦手ー」と同じ人が言うのTから不思議です。田んぼの稲は生育のよい場所があり、苗が大き過ぎるので、はたはTさんTさんTさんTさんTさんTさん...それと肥料、気が足りているから? 今年も忙しい稲作です。Tさんにはピチピチとドジョウがはねて泳いでいる。石垣には深かきが横歩き... カシカモ夫婦は小さいヒトを連れてスイスイ泳いでいます。いつの間にか子も産み集まるといって上げです。命の営みがTさんの夏の田んぼ。夜にはたくさんホタルが飛び始めました。
: 美和子

ひびひの森の仲間Tら ~ 森の中でみつけてね! ~ < 7月 ヤマグワ >

長かった雨の季節もようやく終わりを迎え、木陰のひんやりした場所ですごすことが心地よい季節となりました。ひびひの森にある桑の木も赤や黒のTさんの実を子どもたちが色水づくりを楽しんだり、おままごとに使ったりしています。

暮らしの中でも桑の根皮は桑白皮(そうはくひ)という生薬に使われたり、桑茶なども市販されていますね。マルベリーティーとしてハーブティーの中でも注目されています。お茶はポリフェノールが豊富で血糖値の上昇を制限してくれるので食前に飲むとダイエットにもいいそうですよ。子どもたちも大々桑の実の色もきれいなジャムなどにして楽しむことができ、抗酸化作用がとても高いようです。



実際の桑の木は幹が白く、粒々として肌ざわりで触るとひびひれが強くみられます。葉は若い時ほどきれいな緑が強く、歳をとるにつれて丸く変わっていきます。同じ木に両方の葉がっていることもあり、これが同じ桑の葉? とびっくりする人もいます。

そして今月のシールにもなっている花は本当に地味で、木の実の時のように注目されることがないのが気になります。

けれど露をのせてキラキラとぶらさがっている木実子などとてもかわいらしく、みんなアクセサリーがあったら可愛い...Tさんと思ってしまうことも...

人間と古来から深いつながりをもつ桑の木、ぜひひびひの森で、おうちの近くで採って育ててね!
: 葉の典

